



2022年10月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年3月9日

上場会社名 くらす司株式会社
 コード番号 2695 URL <https://www.kurasushi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 邦彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長 (氏名) 津田 京一
 四半期報告書提出予定日 2022年3月11日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 072-493-6189

(百万円未満切捨て)

1. 2022年10月期第1四半期の連結業績(2021年11月1日～2022年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年10月期第1四半期	46,452	19.5	687	22.4	2,656	189.8	1,708	190.4
2021年10月期第1四半期	38,879	8.3	885	26.0	916	32.9	588	38.6

(注) 包括利益 2022年10月期第1四半期 2,238百万円 (601.0%) 2021年10月期第1四半期 319百万円 (73.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年10月期第1四半期	43.07	43.05
2021年10月期第1四半期	14.88	14.87

(注) 当社は、2021年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年10月期第1四半期	100,873	56,172	49.0
2021年10月期	98,989	54,657	48.7

(参考) 自己資本 2022年10月期第1四半期 49,445百万円 2021年10月期 48,238百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年10月期		0.00		20.00	20.00
2022年10月期					
2022年10月期(予想)		0.00		20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年10月期の連結業績予想(2021年11月1日～2022年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	188,869	28.0	2,827		4,955	56.1	2,878	51.4	72.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P5「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年10月期1Q	41,399,600 株	2021年10月期	41,399,600 株
期末自己株式数	2022年10月期1Q	1,745,263 株	2021年10月期	1,743,030 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年10月期1Q	39,655,017 株	2021年10月期1Q	39,545,976 株

(注)当社は、2021年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提条件その他関連する事項につきましてはP2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(会計方針の変更)	5
(セグメント情報)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2021年11月1日から2022年1月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動の停滞が続くなか、エネルギー価格が急上昇するなど依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、2021年11月に時短要請などの営業規制が全面的に解除され、来店客数が一時的に回復いたしましたものの、2022年1月には新型コロナウイルス変異株の急速な感染拡大により、まん延防止等重点措置が再実施されるなど厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様に安心・安全にお食事いただけるようさまざまな取り組みを行ってまいりました。大手回転寿司で唯一、会話による飛沫などの菌やウイルスからお寿司を守る当社特許取得済みの抗菌寿司カバー『鮮度くん』を導入し、2021年12月にはお客様が入店から退店まで従業員と接することなく飲食できるセルフ会計やセルフレジを備えた「スマートくら寿司」を国内全店に設置完了いたしました。約2年にわたるコロナ禍を経て、お客様が飲食店に求められる安心・安全に対する意識が格段に高まっております。今後はレーン上の寿司カバーや店員との接触を減らすなどの対策が、新常識として定着していくものと考えております。

また、2021年11月には、海洋資源の保全と漁業の持続可能な発展に貢献する目的で水産物養殖会社「KURAおさかなファーム株式会社」を設立いたしました。日本の水産業が規模を縮小する中、当社は「持続可能な漁業」と「食材の安定供給」、高品質でリーズナブルなお寿司の提供を今後も継続していくため、AI や IoT を活用し競争力のある経営モデルの創出を目指してまいります。

店舗開発につきましては、国内9店舗、米国1店舗、台湾2店舗の計12店舗を出店いたしました。米国、台湾とも引き続き積極的に出店を行い、日本の食文化の海外発信に努めてまいります。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、全て直営で579店舗(「無添蔵」4店舗、「くら天然魚市場」1店舗、米国33店舗、台湾42店舗を含む)となりました。

① 日本

2021年10月からの緊急事態宣言解除を受け、11月以降は飲食店に対する営業制限も解除されたことから来店客数が回復いたしました。抗菌寿司カバー『鮮度くん』や「スマートくら寿司」などの感染症対策への高い支持もいただき、当第1四半期連結累計期間中は、既存店売上高が新型コロナウイルス感染症拡大前を上回るなど堅調な売上となりました。店舗開発につきましては、2021年12月9日に国内旗艦店3号店となる東京「原宿店」をオープンいたしました。“日本の伝統文化×トウキョウ・ポップカルチャー”をコンセプトに、クレープを提供する“スイーツ屋台”や色鮮やかに点灯する提灯ウォールなどSNSや動画で発信したくなるようなスポットを配置しています。これまで手薄であった都心部の若者世代をターゲットにした店舗となっております。引き続きくら寿司ならではのエンタメ性、アミューズメント性を楽しんでもいただける店舗作りを進めてまいります。

② 北米

米国子会社(KSU)におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う店内飲食の座席制限などの営業規制も無くなり、消費全般が回復したことから好調な売上高となりました。反面、急速な需要回復により消費者物価や賃金が急上昇し収益が圧迫されました。

③ アジア

台湾子会社(KSA)におきましては、新型コロナウイルス感染症予防にかかる外出時のマスク着用義務など「警戒レベル第2級」が維持されたものの、消費は徐々に回復し売上高は順調に推移いたしました。2021年12月には人気アニメ「鬼滅の刃」とタイアップし、びっくらポン!の景品にキャラクターアイテムを採用するなど、お客様に大変ご好評をいただきました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高464億52百万円、経常利益26億56百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益17億8百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は、1,008億73百万円となり、前連結会計年度末と比較して18億83百万円増加いたしました。これは、主に有形固定資産が31億6百万円増加した一方で、流動資産のその他が18億23百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して3億68百万円増加し、447億円となりました。これは、主に買掛金が7億68百万円、リース債務が8億63百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が18億56百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、主に親会社株主に帰属する四半期純利益17億8百万円を計上した一方で、配当金の支払い7億93百万円を行ったこと等により、前連結会計年度末と比較して15億15百万円増加し、561億72百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月7日に公表いたしました業績予想につきまして、現在のところ変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,748	18,882
売掛金	3,554	4,232
原材料及び貯蔵品	1,798	1,730
その他	5,363	3,539
流動資産合計	29,464	28,385
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	25,259	26,533
使用権資産(純額)	14,791	15,412
その他(純額)	16,692	17,904
有形固定資産合計	56,744	59,850
無形固定資産	899	937
投資その他の資産		
長期貸付金	4,380	4,378
差入保証金	6,132	6,228
その他	1,367	1,092
投資その他の資産合計	11,881	11,699
固定資産合計	69,525	72,487
資産合計	98,989	100,873
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,086	6,855
短期借入金	805	832
未払金	6,885	7,279
未払法人税等	2,676	819
その他	6,742	6,793
流動負債合計	23,195	22,580
固定負債		
リース債務	18,149	19,012
資産除去債務	2,371	2,455
その他	616	652
固定負債合計	21,136	22,120
負債合計	44,332	44,700
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005	2,005
資本剰余金	7,622	7,622
利益剰余金	40,313	41,228
自己株式	△2,139	△2,139
株主資本合計	47,802	48,717
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	435	728
その他の包括利益累計額合計	435	728
新株予約権	354	421
非支配株主持分	6,065	6,305
純資産合計	54,657	56,172
負債純資産合計	98,989	100,873

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)
売上高	38,879	46,452
売上原価	17,455	21,271
売上総利益	21,423	25,180
販売費及び一般管理費	20,537	24,492
営業利益	885	687
営業外収益		
受取利息	12	13
受取手数料	48	41
雑収入	31	30
為替差益	25	19
助成金収入	—	1,917
営業外収益合計	118	2,022
営業外費用		
支払利息	33	50
雑損失	54	3
営業外費用合計	87	54
経常利益	916	2,656
特別損失		
固定資産除却損	25	11
特別損失合計	25	11
税金等調整前四半期純利益	891	2,644
法人税、住民税及び事業税	511	676
法人税等調整額	34	235
法人税等合計	545	912
四半期純利益	345	1,732
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△243	24
親会社株主に帰属する四半期純利益	588	1,708

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)
四半期純利益	345	1,732
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△26	505
その他の包括利益合計	△26	505
四半期包括利益	319	2,238
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	575	2,001
非支配株主に係る四半期包括利益	△256	237

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムにかかるポイント負担金について、従来は販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、ポイント負担金を差し引いた金額で収益を認識することとしております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高、販売費及び一般管理費がそれぞれ92百万円減少しております。なお、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、期首の利益剰余金に与える影響はありません。また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計	
売上高					
外部顧客への売上高	35,263	989	2,626	38,879	38,879
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	35,263	989	2,626	38,879	38,879
セグメント利益又は 損失(△)	1,474	△664	106	916	916

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計	
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	39,524	3,355	3,573	46,452	46,452
外部顧客への売上高	39,524	3,355	3,573	46,452	46,452
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	39,524	3,355	3,573	46,452	46,452
セグメント利益又は 損失(△)	2,439	△142	359	2,656	2,656

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。